

あいむ柏崎

— 女と男 共につくる希望の未来 —

令和6(2024)年3月5日

第10号

発行 | かしわざき
男女共同参画推進市民会議

寄稿

「戦争を知らない私たちは」

新潟県選出 広島・長崎派遣平和大使
新潟県立柏崎高等学校 2年 高橋 千紘 さん

皆さん、こんにちは。柏崎高校2年の高橋千紘です。私は昨年、第25代高校生平和大使広島長崎派遣大使として活動しました。この場を借りて皆さんにお話できることを嬉しく思います。私は広島と長崎への研修参加、県内でも署名を始めとする諸活動を行ってきました。私は普通の高校生ですが、そんな高校生でもできることがあるのだから、自分にも何かできることがあるのではないかと、これを読んでもくださる皆さんに思っていただけで幸いです。

上記のような活動を通じて私が感じたことは、大きく分けて二つあります。

まず、平和への想いを共有する際には、国籍も年齢もハンディキャップも関係ないということです。また、平和を目指すこと自体が、人と繋がる架け橋になるのではないかとも思うようになりました。もちろん、多様な方々と交流する中で、生まれ育った背景や価値観が異なるために、誤解が生じてしまうこともあると思います。ですが、そのような時こそ、相手の見えない部分を推し量ったり、お互いに尊重しあったりすることが必要なのだと思います。

二つ目は、小さな行動を起こすことの大切さです。高校生平和大使のスローガンは「ビリョクだけどもリョクじゃない」といいます。核兵器禁止条約のように、小さなアクションが重なれば世界が動きます。同じように、現在の行動の積み重ねによって未来も変わります。もしかしたら、分岐点は今で、未来の在り方を選択することになるのは私たちかもしれません。今を生きる私たち一人ひとりが、世界の動向に関心を持って、自分にできることを熟慮断行していくことが求められているのではないのでしょうか。

そして、ここまで読んでくださった皆さんにメッセージを送りたいと思います。まずは大人の方々へ。子供たちが主体的に動いて、答えのない問いに向き合える環境を、今後も整えていただきたいです。私がこのような活動に参加するようになった背景には教育が大きく関わっています。授業を通して、社会問題に対する意見を問われ続けてきたおかげで、絶対的な答えのない問いでも、自分には何ができるのかを考えるようになりました。子供や未来のため、既にご尽力いただいている方々に感謝するとともに、私たち若者世代も、誰もが笑顔で過ごせる世界の実現に向け努力していきます。

最後に、一人の高校生として皆さんに伝えたい事があります。それは、毎日の生活や皆さん自身のかけがえのなさです。まずは自分自身を大切にする。そして、自分の周りの人を大切にする。この積み重ねでしか、本当の平和は築けないと私は思っています。皆さんも今日から意識してみませんか。



柏崎市議会総務常任委員会との意見交換会

「生み育てやすいまち」への課題を共有

令和5年8月24日(木) 会場／市役所多目的室
出席者／柏崎市議会総務常任委員6人 かしわざき男女共同参画推進市民会議11人

若者、特に若い女性から選んでもらえる、魅力あるまちづくりのために、「子どもを生み育てやすいまち」をテーマに意見交換会を開催しました。共有した課題の概要は次のとおりです。

- 情報発信は、必要なもの(医療機関、子育てコミュニティ、遊び場、補助制度など)が明確に伝えられるようにする。市役所や元気館の窓口に自分から聞きに行くのはハードルが高い。
- 地域の支え合いはやはり重要な要素となる。過疎化は深刻。子育て世代(子ども)が極端に少ない現実をどう打破できるか。
- まずは、子どもたちに地域愛を育むことが大事。若い世代が中心部に出て行き、中山間地域の少子化が進んでいる。
- 遊べる場や機会の確保が、容易にできることを目指す。学校を遊び場として開放できないか。母親のコミュニティもできるのでは。
- 出産、育児休業が取得しやすい環境・制度を考える。多くの高齢者が現役を続けている時代、「じじば育休制度」もあっていいのではないかな。

(T/M)



私たちは柏崎の「ハッピー・パートナー企業」です



新潟県では、男女が共に働きやすく、仕事と家庭等の両立、女性従業員の育成や登用などに積極的に取り組む企業を「ハッピー・パートナー企業」として支援しています。

柏崎市ホームページ
ハッピー・パートナー
企業募集



「心の健康づくりを目指して」

株式会社品田電業社 新橋4-21

株式会社品田電業社は、「昭和2年創業の技術と信頼、そして未来へ」をキャッチフレーズに、以下の三つを経営理念として日頃の業務に邁進しています。

- ★公共インフラ・ライフライン公共交通機関など、地域社会に貢献する企業
- ★お客様の要求に的確に答え、お客様と共にある企業
- ★社員と家族の生活を守り、雇用を創出する企業

弊社は、平成30年に「ハッピー・パートナー企業」として新潟県から認定を受け、男女ともに家庭生活を大事にしながら働きやすい職場環境の実現を目指しています。平成30年に女性管理職を登用し、令和4年6月に男性が育児休業を取得しました。

また、厚生労働省の「労働者の心の健康の保持増進のための指針」に基づき、令和3年11月22日に『心の健康づくり計画』を策定いたしました。日常の仕事の安全性のためにも、メンタルヘルス不調への対応だけでなく職場のコミュニケーションの活性化を含め、従業員の心の健康づくりと活気ある職場づくりに取り組んでいます。



代表取締役
品田 史夫さん

「男女共に活躍し、働きやすい環境づくり」

公益財団法人柏崎地区交通安全協会 日吉町6-15

戦後のモータリゼーションの急速な発展や交通網の拡大により、史上最大の交通死亡事故を記録した昭和45年に、激増する交通事故をなくすため交通関係の三団体が大同団結をはかり、前身となる「柏崎地区交通安全協会」が設立されました。その後、交通安全活動や交通安全意識の高揚を推進する公益法人として、日々、交通事故ゼロを目指して交通事故防止活動に取り組んでいます。

協会役員の方々、地域の方々も意欲的に交通安全活動に参画され、特に女性部の皆さんには、高齢者や子供たちの交通事故防止に大きく貢献していただき、男女共に地域の活性化と安全安心な環境の実現に向けて活躍しています。

当協会事務局の職員はほとんどが女性で、知識やアイデアを生かした活動や責任をもった業務を行い、各担当現場で活躍しており、女性の事務局長や事務主任への登用もあります。長く安心して仕事を続けられるように、家事・育児・介護の両立に配慮した就業規則等を定め、育児休業や介護休業等を取得しやすい環境づくりも行っています。

すべての人が職場・家庭・地域で調和のとれた社会の実現に向けて、今後も男女共に活躍し、働きやすい環境づくりに配慮してまいります。



職員の皆さん

～ままだって～ 「お母さんとチャレンジDIY」

令和5年10月7日(土) 午前10時～正午
会場／株式会社太田材木店 社屋

ままだってできる、8組の親子が大工さんのご指導の下、親子で座れるベンチ作りに挑戦しました。

まずは、ベンチの見本と説明書を見ながら、材木を切るところからです。のこぎりをどう使えばうまく切れるかを聞き、挑戦。コツをつかむと上手に寸法どおりに切り、見本とは違うオリジナルのベンチを作った親子も。『ままだって』というより、自分のオリジナル作品にすることを親子で楽しんでいるようでした。

多くの皆さんから、子どもと一緒に楽しくできたとの声が聞かれました。いつもお父さんと一緒にいることが多いお母さんですが、大工道具を使っの共同作業は、改めてじっくり子どもさんと向き合える時間になったのではないのでしょうか。

(N/S)



～ばばだって～ 「お父さんと作ろうクリスマスケーキ」

令和5年12月3日(日) 午前10時～正午
会場／市民プラザ料理実習室

感染症対策を施し、料理研究家の高橋みどりさんを講師にお招きし、親子11組22名(応募49組)で実施しました。

子どもパティシエとお父さんによる、卵割りからスポンジ作りと始まり、生クリームの泡立て、苺の位置決めと父子で話し合いながらの微笑ましい時間でありました。

参加者談話のご紹介。

「パティシエ帽子のプレゼントに『何回も作ろうね!』と子どもからリクエストがあり嬉しいです。(汗)」
「家族で念願だった企画に参加でき喜んでいます。」
「今度は一人で作って家族を喜ばせたいです。」

“父子の絆”と
“仕事と生活の調和”が垣間見えました。

(T/O)



柏崎 ハリキリ女性 番付

昭和30(1955)年1月1日付の柏崎日報に掲載された「柏崎ハリキリ女性番付」。新年の幕開けに景気のよい内容として選ばれたのが、当時の柏崎を盛り立てていた女性たちの名前でした。

この紙面では文字が小さくて読み取りにくいと思いますが、何人かご紹介しましょう(敬称略)。

「年寄り」に名を連ねるのが、三宮とき(和裁)、小林澄(文英堂)、廣井貞順(釈迦堂)の3名。三宮ときは、三宮女学校の校長を務めるとともに婦人運動などにも尽力した人で、本紙1号で紹介した三宮茂子の跡を継いだ人です。「行司」は品川正三(箏曲)、杵淵賢孝(洋裁)、西巻亀一郎(美容)、上村明峰(活花)の4名。男性が選ばれています。

気になる番付を見てみましょう。東西の「横綱」は県議夫人と市長夫人、「張出し横綱」は人権擁護委員と常盤同窓会長。「大関」は市助役夫人と柏崎婦人会長、「関脇」は老舗旅館の女将、「小結」は随筆家。以下、「前頭」と続きます。文化界や政界で活躍する人、懐かしい職業やお店の名前などが見受けられます。

こうした番付が掲載されるとは、ユニークな時代ですね。高度経済成長期の始まり、柏崎を支えた女性たちの勢いが感じられます。

(協力/市立博物館 早川 美奈子さん)

昭和30年(1955)1月1日 (土曜日) (日刊)

東 方		西 方	
横綱 小結 大関 関脇 前頭 中頭 下頭 十両 千両 幕下 三段 二段 一段 三段 二段 一段	横綱 小結 大関 関脇 前頭 中頭 下頭 十両 千両 幕下 三段 二段 一段 三段 二段 一段	横綱 小結 大関 関脇 前頭 中頭 下頭 十両 千両 幕下 三段 二段 一段 三段 二段 一段	横綱 小結 大関 関脇 前頭 中頭 下頭 十両 千両 幕下 三段 二段 一段 三段 二段 一段
三宮とき 小林澄 廣井貞順 品川正三 杵淵賢孝 西巻亀一郎 上村明峰	三宮とき 小林澄 廣井貞順 品川正三 杵淵賢孝 西巻亀一郎 上村明峰	三宮とき 小林澄 廣井貞順 品川正三 杵淵賢孝 西巻亀一郎 上村明峰	三宮とき 小林澄 廣井貞順 品川正三 杵淵賢孝 西巻亀一郎 上村明峰

柏崎ハリキリ女性番付
昭和30(1955)年1月1日 柏崎日報

会員募集!

かしわざき男女共同参画推進市民会議

女性も男性も生き生きと輝く社会を目指して、一緒に活動してくださる方、支援してくださる方を募集!

活動内容

- ・学習会・研修会(労働、人権、まちづくりなど)
- ・イベント(子育て支援、父親の家事・育児など)
- ・啓発事業(公開講演会など)
- ・広報誌発行(あいむ柏崎/年2回)

年会費/1,000円(個人会員)
3,000円(法人・団体会員)

<問い合わせ先・申込先>

事務局: 柏崎市人権啓発・男女共同参画室
〒945-8511 柏崎市日石町2番1号
TEL 0257-20-7605 FAX 0257-22-5904
Eメール: danjo@city.kashiwazaki.lg.jp

あとがき

今号のトップ記事は、柏崎高校2年生の高橋千紘さんから寄稿いただきました。

講演会に参加した私は、「世界の動きに関心を持ち、自分の意見を持って行動を起こす人が増えてほしい。」と訴える高橋さんに感銘を受け、頼もしく感じました。

そして、今も地球上で悲惨な武力紛争が絶えない現状を注視し、せめて無関心でいることはやめようと心に刻みました。

参加した多くの方が、高橋さんのような若者が多く育つことを願う思いを強くされたことでしょう。

(高橋さんから、昨年10月29日、市民約30人が参加した市主催の「平和を考える会」において講演をしていただきました。)

(T/M)

こちらからご覧いただけます

— 柏崎市ホームページ —

市民会議
会員募集



あいむ柏崎
バックナンバー

